

水稻の病害虫発生状況（6月）

1 葉いもち

(1) 6月の調査では、浜通りの1地点で補植用置苗に葉いもちが確認されました（表1）。

(2) 6月下旬における置苗の残存ほ場率は平年より少ない状況でした（図1）。補植用置苗は葉いもちの発生源になるため、速やかに処分してください。

表1 補植用置苗での葉いもち初確認日（6月調査）

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	平年
中通り	未確認	未確認	6/21	7/2	未確認	6/22	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	6/25
会津	未確認	未確認	6/20	未確認	6/20	6/8	未確認	6/21	6/11	未確認	未確認	6/16
浜通り	6/10	6/6	6/15	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	6/12	6/10

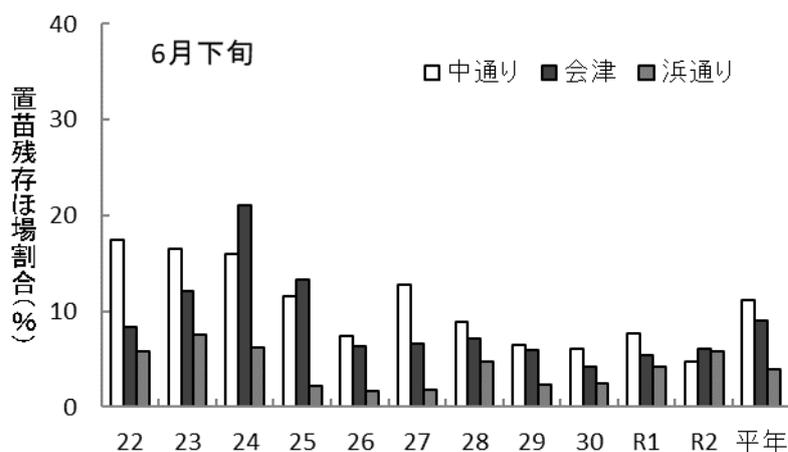


図1 補植用置苗の残存状況（6月下旬調査）

注）本年度の調査ほ場数は、中通り 380、会津 280、浜通り 120

2 イネミズゾウムシ

6月上旬及び下旬とも、発生ほ場割合は中通りと会津で平年並、浜通りで平年より高く、被害程度が高いほ場も見られました（図2、3）。

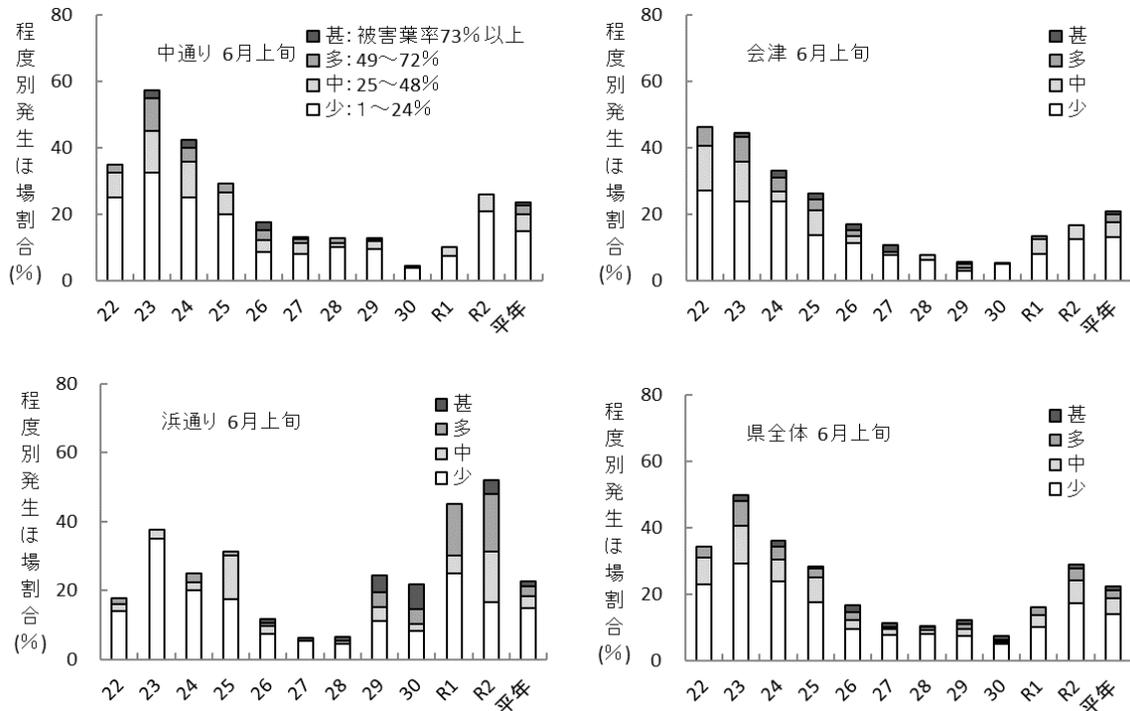


図2 イネミズゾウムシの被害程度別発生ほ場割合（6月上旬）

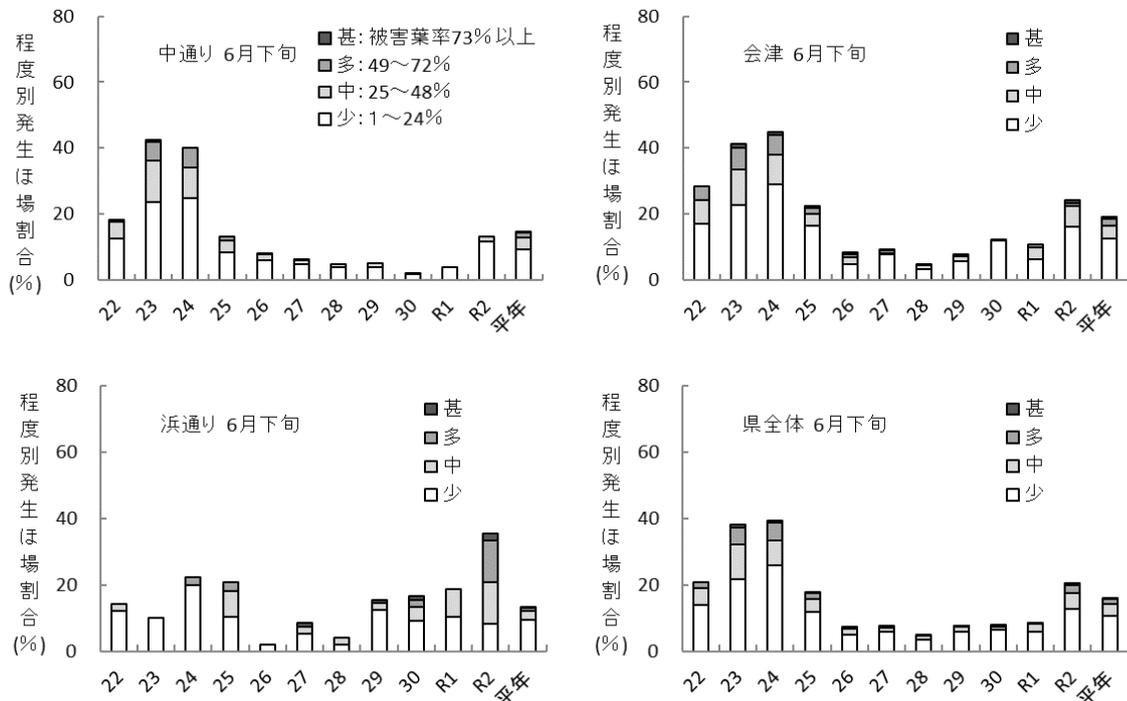


図3 イネミズゾウムシの被害程度別発生ほ場割合（6月下旬）

3 イネヒメハモグリバエ

(1) 6月上旬調査では、発生ほ場割合は全域で平年より低くなりました(図4)。

(2) 6月下旬調査では、発生ほ場割合は浜通りで平年並、中通りと会津で平年より低くなりました(図5)。

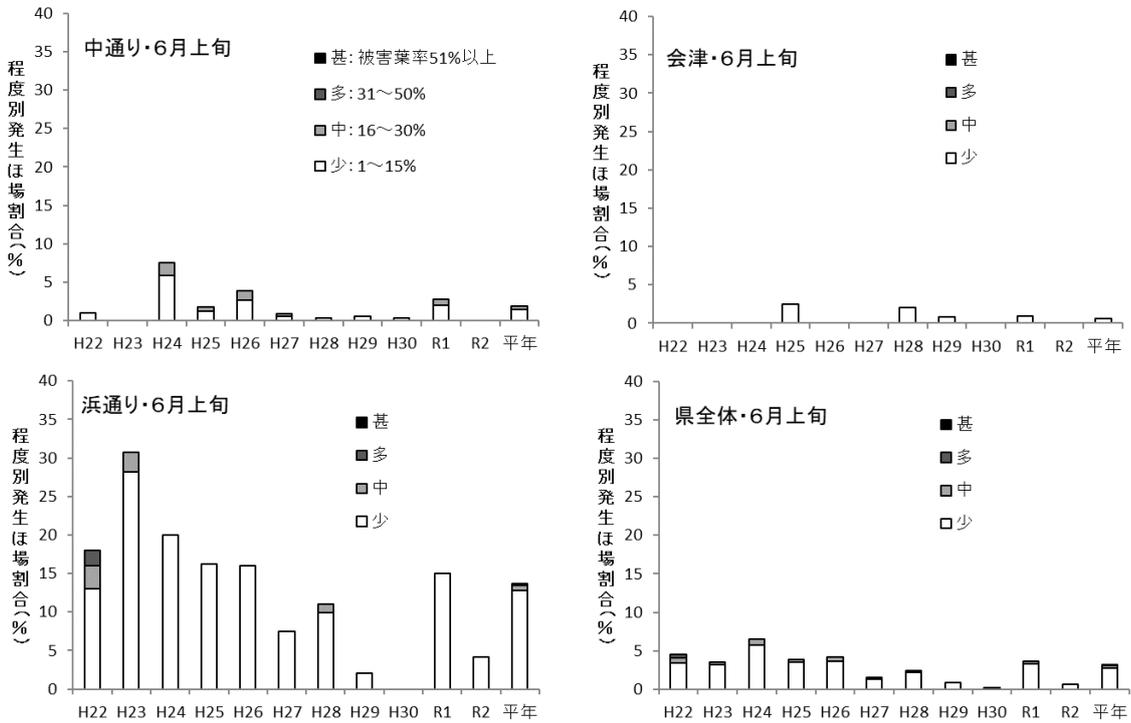


図4 イネヒメハモグリバエの被害程度別発生ほ場割合(6月上旬)

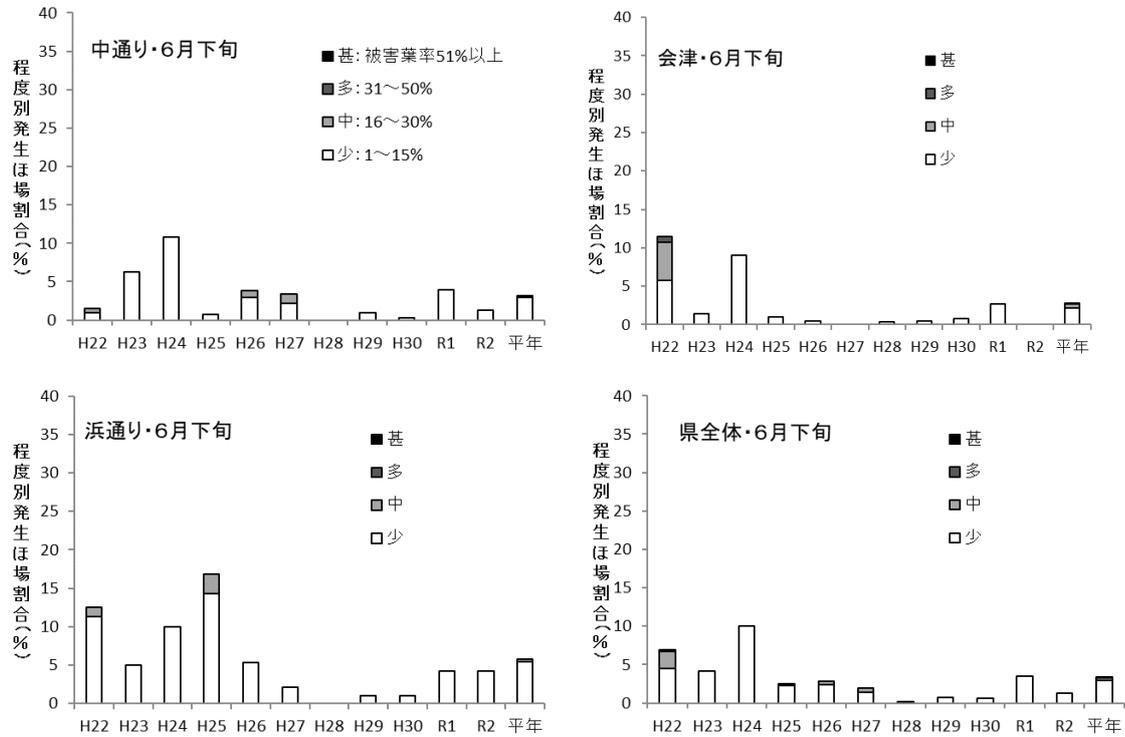


図5 イネヒメハモグリバエの被害程度別発生ほ場割合(6月下旬)

4 イネドロオイムシ

6月下旬調査において、全域で概ね平年並の発生でした（図6）。

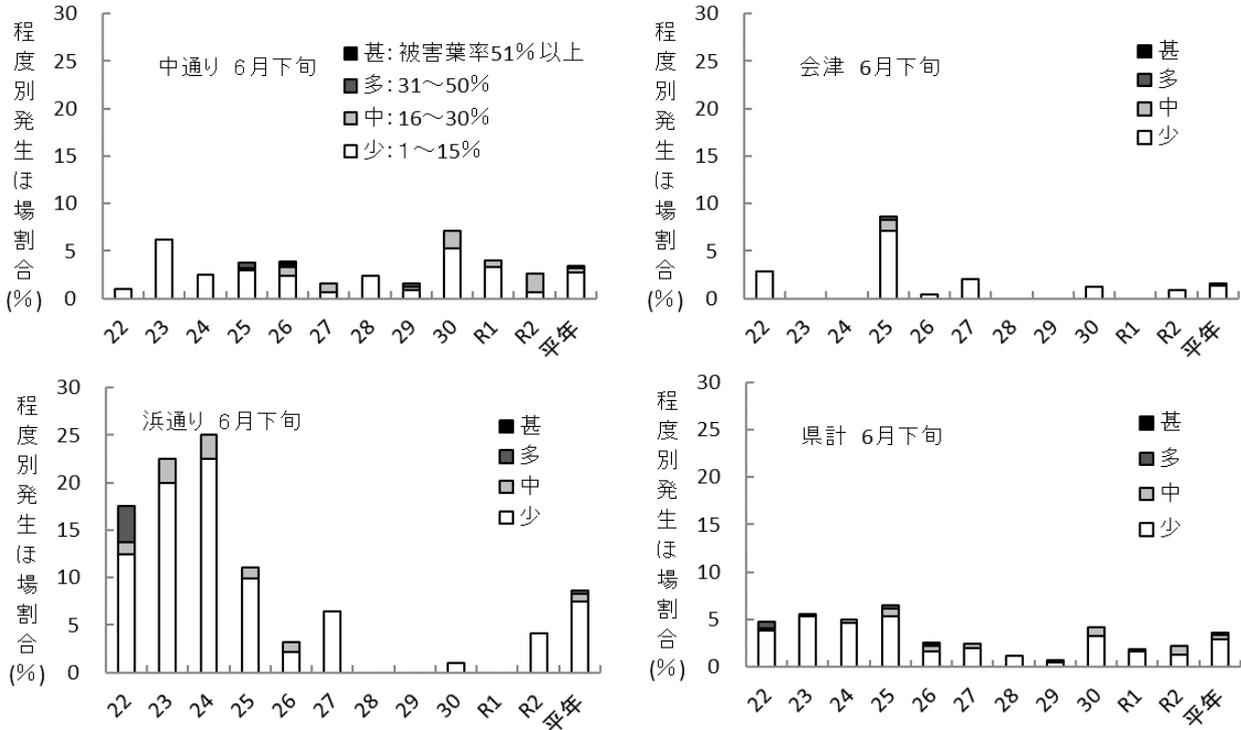


図6 イネドロオイムシの被害程度別発生ほ場割合（6月下旬）

5 イナゴ類

6月下旬調査では、平年並に多くのほ場で幼虫の発生が確認されました（図7）。

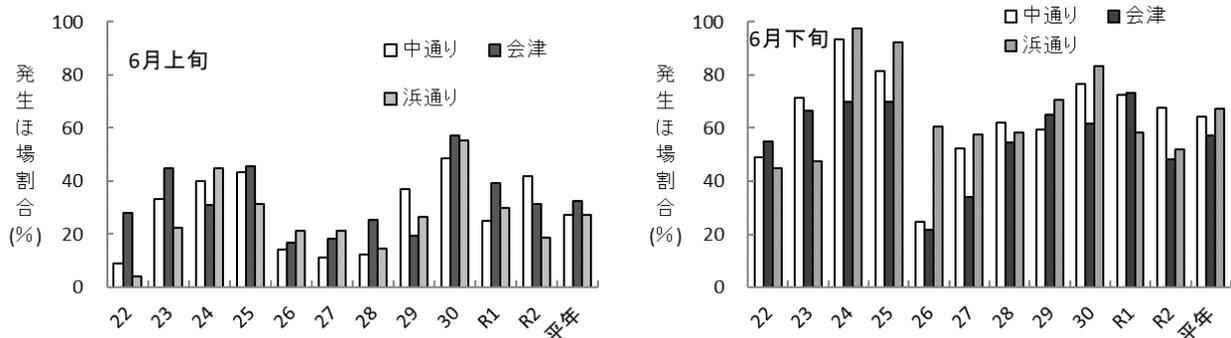


図7 イナゴ類幼虫の発生ほ場割合（6月上・下旬）

6 斑点米カメムシ類

- (1) 6月下旬の畦畔すくい取り調査では、発生地点割合が平年よりやや高い状況でした（図8）。
- (2) 主な種類は中通りと浜通りでアカスジカスミカメとホソハリカメムシ、会津でアカスジカスミカメとアカヒゲホソミドリカスミカメ、オオトゲシラホシカメムシでした（図9）。
- (3) 予察灯やフェロモントラップの調査結果は下記のURLからご覧ください。

予察灯 <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/2020-lamp-top.html>

フェロモントラップ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/pheromonetrap-2020.html>

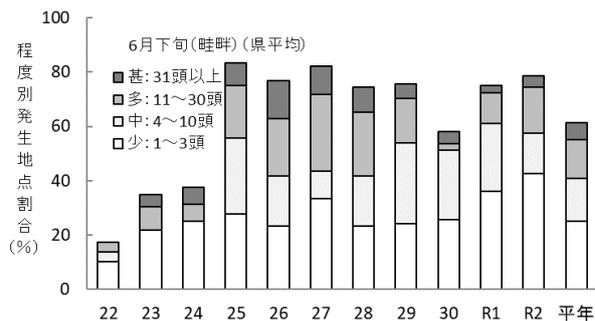


図8 畦畔雑草における斑点米カメムシ類の程度別発生地点割合（6月下旬）

注) 地点数…中通り 24、会津 15、浜通り 8

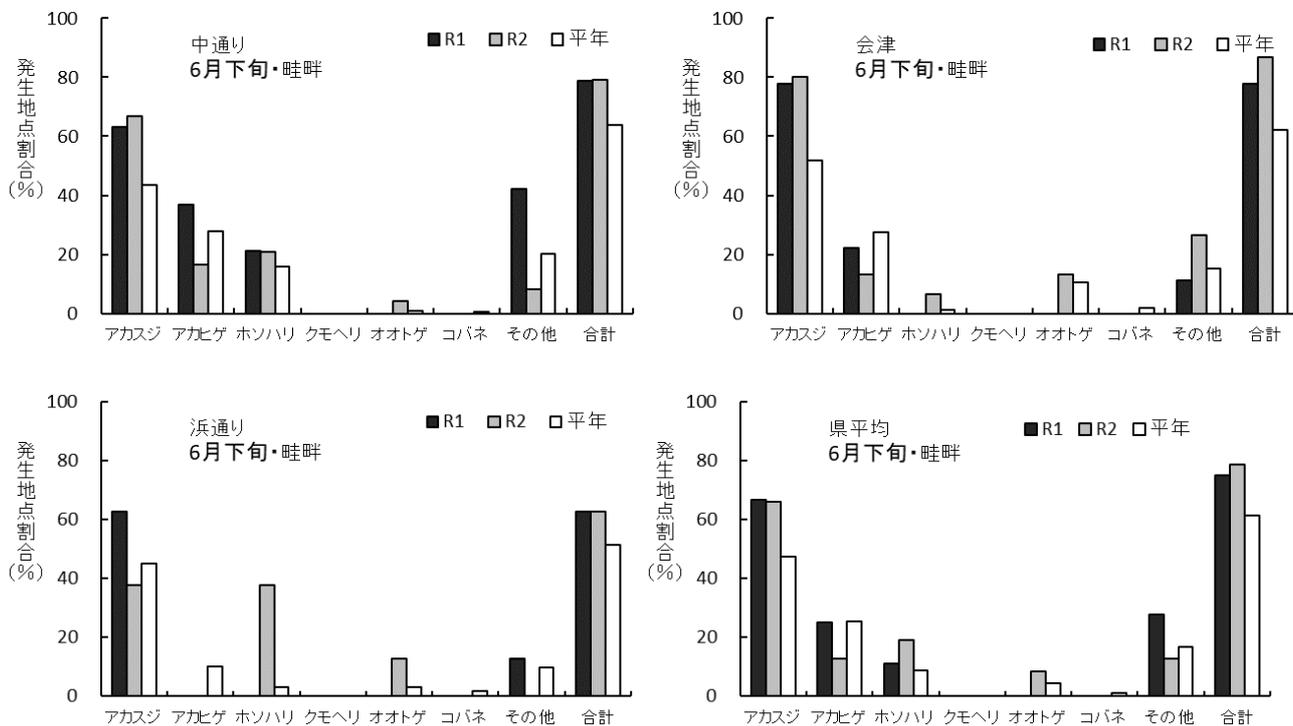


図9 畦畔雑草における斑点米カメムシ類の加害種別のすくい取り数（6月下旬）

注) 地点数中通り 19、会津 9、浜通り 8

(アカスジ: アカスジカスミカメ、アカヒゲ: アカヒゲホソミドリカスミカメ、ホソハリ: ホソハリカメムシ、

クモヘリ: クモヘリカメムシ、オオトゲ: オオトゲシラホシカメムシ、コバネ: コバネヒョウタンナガカメムシ、の略)